

旧中越銀行本店

内部装飾の美

平成 28年 4月 22日(金) ~ 6月 5日(日)

チューリップフェア期間中

平成 28年 4月 22日(金)~5月 5日(祝・木)は無休 午前8時30分~5時30分

チューリップフェアの入場券が必要です



開館時間：午前9時から午後5時
会場：砺波市立 砺波郷土資料館
休館：毎週月曜日・第3日曜日
〒939-1382 富山県砺波市花園町 1-78
TEL 0763-32-2339 FAX 0763-32-2436
主催：砺波市立 砺波郷土資料館 共催：(公財)砺波市花と緑と文化の財団



入場無料

旧中越銀行本店 内部装飾の美

～ 目の付けどころ ＊ ポイント ～

2F 役員会議室
1階から見上げると豪華な彫刻とシャンデリアが垣間見れます。



この旧中越銀行本店の建物は、
外見は木造二階建入母屋土蔵造りで純和風
内部は西洋の装飾を施した洋館風

100年以上前に地元砺波の宮大工の棟梁が和の技術を駆使して西洋風に仕上げた建築物です。

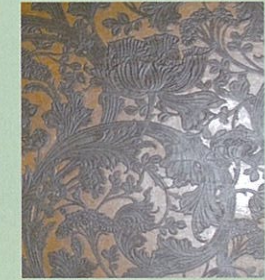
和と洋が混交し、奇妙な魅力を醸し出しているこの建物は和の技術で洋風を擬えたことから、「擬洋風建築」と呼ばれています。

和

洋

頭取室

天井には金唐革紙、それを囲むように高級化粧材の黒柿が施され、上質に設えた部屋です。



金唐革紙

和紙で作られた明治の高級壁紙。明治の洋館などに施されましたが、現存数が少ないのでとても貴重です

黒柿

柿の木で、ごく稀に心部に黒色のものを黒柿と呼び、高級な工芸品などに用いられます。



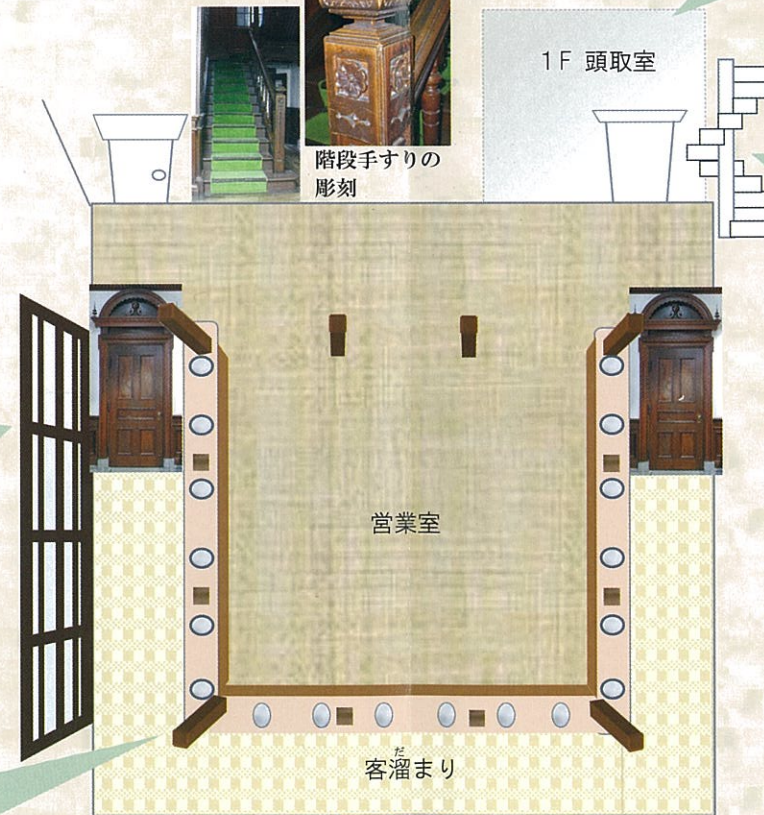
天井を見上げる

吹き抜けの空間に広がる柱や彫刻、天井に張られた壁紙の模様など、西洋の装飾が目飛び込んできます。右の写真は2F廻り廊下の柱。コリント式の柱頭が簡素化されています。



階段手すりの彫刻

1F 頭取室



螺旋階段

頭取室横の螺旋階段。階段下には小物用の収納庫が備わっています。階段が狭く、急勾配なので、実用的でなく、あまり使われなかったようです。



客溜まりと営業室を分けるケヤキの一枚板のカウンター

カウンターの受付口には大理石がはめ込んであります。

建設当時は金網が張られていましたが、戦時中に供出し、現在はありません。



金網が張られていた頃の中越銀行本店

玄関ポーチ
(風除室)

玄関ポーチ

銀行当時には風除室と呼ばれていました。天井一面に鍍絵が施されています。



鍍絵

漆喰を塗った上に、鍍を使って浮き彫りのように描き出した絵。左官職人が鍍を使って仕上げることから鍍絵と呼ばれています。

アカンサス(西洋葉あざみ)をモチーフとした西洋風の鍍絵。彫りが深く、繊細な出来映えの超一級品。

2F 廻り廊下の鍍物



旧中越銀行本店 外観

～ 目の付けどころ ～



おにがわら
正面 鬼瓦

旧中越銀行の名残りを残す「中」の文字と分銅のマークの鬼瓦

いりもややね
入母屋屋根

屋根形状の一種で、寄棟屋根と切妻屋根を組み合わせた形状の屋根



どうばんなき
銅板葺の屋根

美しい緑青色の銅板葺の屋根。昭和初年に本瓦葺から銅板葺になりました



昔の旧中越銀行本店

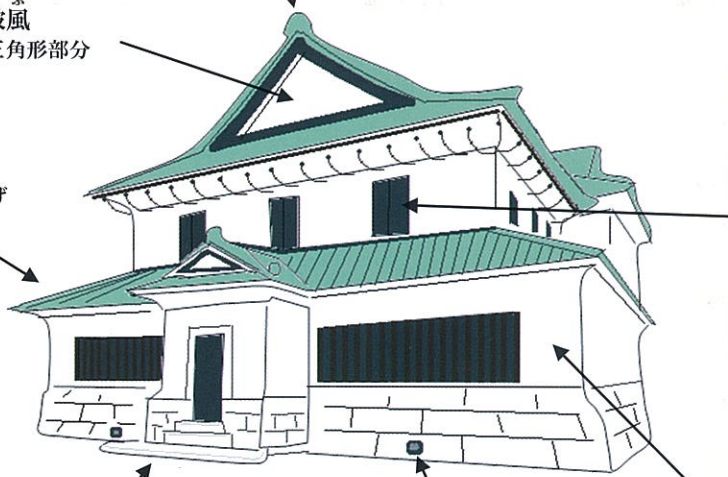
建設当初から昭和初期までは外壁は黒漆喰、屋根は本瓦葺という姿でした

はふ
破風

切妻の三角形部分

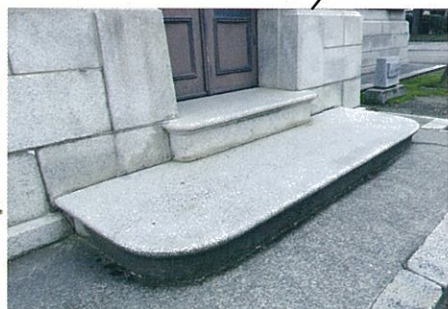
げや
下屋

本屋根より一段下げで作った小屋根



土蔵の扉

鉄と漆喰で作られた扉。扉と窓枠のキタ(壇状)によって火事の際に建物内への火と煙の侵入を防ぎます



正面入口の階段の石

瀬戸内海の北木島産の花崗岩
「北木御影石」「北木石」で知られています



ゆかしたかんきこう
床下換気口

西洋風の凝ったデザインの
鋳物の面格子。



外壁はスクラッチタイル

昭和13年に黒漆喰からスクラッチタイル貼りに替わりました

建物概要

構造：木造二階建 土蔵造り
屋根：トラス小屋組使用の四方入母屋造り
概括設計：長岡平三
実施設計及び工事監督：藤井助之照
明治42年7月竣工

沿革

- (1894) 明治27年12月 (株)中越銀行創設 豪商の邸宅の一部を借用開店
- (1909) 明治42年7月 東礪波郡出町(現砺波市本町)に中越銀行本店 竣工
- (1943) 昭和18年7月 一県一行の国策により県内の銀行が合併して北陸銀行となる
- (1978) 昭和53年 都市改造計画のため、取り壊すところを銀行の篤志により砺波市へ寄贈、現在地へ解体移築される
- (1982) 昭和57年12月 明治洋風建築の代表的建物として砺波市指定文化財になる
- (1983) 昭和58年4月 「砺波郷土資料館」として開館